

オンデマンド型オンライン授業実践および オンライン授業への評価

An Evaluation of On-Demand Online Teaching Practices and Online Teaching

勝谷 紀子

Katsuya Noriko

北陸学院大学・青山学院大学社会情報学部非常勤講師

Hokuriku Gakuin University / School of Social Informatics, Aoyama Gakuin University (part-time lecturer)

Abstract: In this paper, an on-demand online class that was implemented and evaluated by the author is introduced (Study 1). Student participants were asked to evaluate the online class in general (Study 2). The results revealed that the students evaluated the on-demand online class as being generally easy to participant in. It is pointed out that one of the benefits of real-time classes is the ease of communication. It is also mentioned that one advantage of the on-demand class is due to its lack of time constraints.

キーワード：オンライン授業 オンデマンド型授業 授業評価

Keywords : Online Teaching, On-Demand Type Teaching, Course Evaluation

問 題

新型コロナウイルスの感染拡大は、2020年度からの大学教育にも多くの影響をもたらした。多くの大学では前期授業の開始が延期され、キャンパスの教室で対面にて行うという通常の授業は実施できなくなった。かわりに、インターネットを介したオンラインで授業を実施するという異例の事態になった。2020年度7月時点でオンライン授業（遠隔）と対面授業の併用をしている大学・高等専門学校は約6割にのぼる（文部科学省、2020a）。通常の対面授業（調査では面接授業と呼んでいる）を全面的に再開する時期については、7月中、8月中に開始すると答えた大学・高等専門学校はいずれも1割未満で、約3割が9月以後、約6割で検討中との回答だった。実際、2020年度後期に入ってもオンライン授業は実施され続けている現状である（文部科学省、2020b）。

通信教育課程を含まない大学においてオンラインで授業をせざるをえない状況は非常に困難な事態であり、ほとんどの教員は手探りの中で授業を進めてきたといえる。実際、Facebookでは「新型コロナ休講で、大学教員は何をすべきかについて知恵と情報を共有するグループ」というグループ（現在は「新型コロナのインパクトを受け、大学教員は何をすべきか、何をしたいかについて知恵と情報を共有するグループ」と名称変更）というグループができ、参加者が2020年11月現在で2万人を超えている現状である。グループにおいては授業の実践方法や授業に活用できるツール、今後の大学教育のあり方などさまざまな問題について情報交換、意見交換がなされている。

オンライン授業は、eラーニングとも呼ばれており、さまざまな形態がとられている。オンライン授業には、ビデオ会議システム等を用いてリアルタイムでおこなうリアルタイム型、動画を含む視聴覚教材を配信して実施する非同期的なオンデマンド型、教員が教材や課題を提示して学習者が自分のペースで学習を進める自

己学習型などさまざまな形態が含まれている（富永・向後，2014）。

いずれの実施形態が効果的かは一概にいえず、科目でとりあげる学習内容や授業形態（講義形式か演習形式か実習を取り入れた形式かなど）、学生の情報リテラシーや学力などさまざまな要因が関係していると考えられる。今後新型コロナウイルスの感染問題が収束を迎えたとしても、通信教育課程ではない大学においてもオンライン授業のスタイルが一切なくなり以前の授業スタイルに完全に元に戻ることは考えにくい。むしろオンライン授業の実践で蓄積されたノウハウの積み重ねを活かして新しい生活様式に合った形での授業実践へと役立てていく必要がある。

オンライン授業の効果を評価し、今後の授業実践に役立てていくためには、実際にオンライン授業を受けてきた当事者である学生自身が授業についてどのように評価しているかを調べる必要がある。そこで、本論文では当初講義形式で実施する予定だった授業科目においてオンデマンド型オンライン授業をおこない、受講者に対してオンライン授業についての評価を尋ねた（研究 1）。次に、オンライン授業全般に対する意識も尋ねた（研究 2）。

研究 1 オンデマンド型オンライン授業への評価の検討

目 的

研究 1 では、オンデマンド型オンライン授業の実践を報告して、その授業に対する評価を検討した。

方 法

調査協力者 著者が担当する心理学関連の授業科目を履修している学生 24 名であった。男性 13 名、女性 11 名、4 年生 4 名、3 年生 13 名、2 年生 7 名であった。出身地は神奈川 9 名、東京・静岡 3 名、などとなっていた。居住している場所は神奈川が最も多く 17 名、実家（保護者、親類など）暮らしの学生が 16 名と最も多かった。

授業実践の内容 著者が当初講義形式で実施予定だった

心理学関連の授業科目をオンデマンド型のオンライン授業で実施した。授業実践にあたっては、青山学院大学情報メディアセンターから使用できるツールを複数示されたため、それに従いいくつかのツールを用いた。具体的には、学習管理システム（Learning Management System; LMS）のコースパワーを中心に用いて、これにスライド資料、YouTube および Cisco 社の Webex Meeting にアップロードした解説動画や授業ごとの課題を提供した。課題回収もコースパワーで実施した。

また、コースパワーでは自分の名前が明らかになるので質問がしにくいという学生からの意見があった。そこで、LINE の OpenChat（オープンチャット）も開設した。これは LINE 株式会社が提供しているサービスで、「興味関心事や日常生活に密着した話題についてトークルームの中で会話や情報交換を楽しむサービス」で「LINE の友だち交換をしなくてもみんなでも話を楽しんだり、情報をキャッチしたりできる」（LINE OpenChat 公式ブログの説明より）。普段使用している LINE のアカウントはわからない形で複数のユーザーが匿名でやりとりできる仕掛けになっている。今回は「科目名」でオープンチャットを開設して、必要であれば各自自由に使って良いとアナウンスした。

授業計画 授業はシラバスに掲載した通りの内容に沿って実施した。各回の内容は、スライドの縮小版、補足資料、スライドの内容を元に筆者が解説をした動画であった。動画は YouTube に非公開でアップして履修者のみが閲覧できるように設定をした。各授業の課題はコースパワーで回収した。小テストはコースパワーのテスト機能を用いて実施した。

最終回で実施した発表会は、ビデオ会議システムが十分に使用できない通信環境の学生がいることを考慮して、コースパワーの掲示板機能を用いておこなった。具体的には、掲示板に氏名、発表タイトルと発表の要旨、発表資料のファイルを添付するか自作した発表動画へのリンクを貼るかたちでの投稿を求めた。授業時間中に受講者がお互いに発表資料を閲覧し、コメントをし合う形で発表会を行った。

授業評価 授業のすべての予定が終了した後、授業に対する評価を受講者に任意で尋ねた。質問項目の一部は、青山学院大学地球社会共生学部によって実施され

た「青山学院大学 GSC オンライン授業に関する一斉アンケート調査 2020 July」の質問項目を使用した。

結 果

オンライン授業の受講状況 「オンライン授業を主に受ける家庭内での場所はどこですか？」の回答は、個室 17 名 (70.8%)、リビング 7 名 (29.2%) だった。自宅のネットワーク環境は、「光回線 (1Gbps 以上の CATV も含む)」が 12 名 (50%)、「わからない」が 8 名 (33.3%)、「モバイル WiFi (WiMax/4G/5G 等)」が 3 名 (12.5%)、「光回線光以外の固定ブロードバンド回線 (ADSL 等 通信速度が 1Gbps 未満)」が 1 名 (4.2%) だった。自宅のネットワーク環境の通信制限については、「通信制限なし」が 17 名 (70.8%)、「通信制限あり」が 3 名 (12.5%)、「不明」が 4 名 (16.7%) だった。

オンデマンド型オンライン授業の受講状況 評価対象となる授業科目の受講状況について尋ねた。「毎回時間割どおりに受講した」が 9 人 (37.5%)、「2/3 程度、時間割どおりに受講した」4 人 (16.7%)、「1/2 程度、時間割どおりに受講した」が 3 人 (12.5%)、「1/3 程度時間割どおりに受講した」が 2 人 (8.3%)、「ほとんど時間割どおりに受講しなかったが」6 人 (25%) であった。受講時間帯にばらつきがみられていた。課題の提出状況（「あなたはこの授業科目の課題をどの程度提出しましたか。」）については「毎回提出した」が 18 人 (75%)、「2/3 程度提出した」が 6 人 (25%) であった。課題は全体の 2/3 以上が提出されていた。

予習の実施状況（「あなたはこの授業科目の予習をどの程度しましたか」）については、「週に 4 時間以上」が 1 人 (4.2%)、「週に 2－3 時間以内」が 1 人 (4.2%)、「週に 1 時間以内」が 7 人 (29.2%)、「ほとんどしなかった」が 15 人 (62.5%) であった。予習をする人がほとんどいなかったのは、テキストを使用していないためと考えられる。

復習の実施状況（「あなたはこの授業科目の復習をどの程度しましたか」）については、「週に 4 時間以上」が 1 人 (4.2%)、「週に 2－3 時間以内」が 3 人 (12.5%)、「週に 1 時間以内」が 13 人 (54.2%)、「ほとんどしなかった」7 人 (29.2%) だった。全体的には 1 時間以内の復習をしている傾向が見られた。

授業内容についての評価 授業内容について尋ねた質問への回答は次のとおりだった。まず、「スライドなどの配布資料はわかりやすかったですか」については、「とてもわかりやすかった」が 7 人 (29.2%)、「ややわかりやすかった」が 11 人 (45.8%)、「どちらともいえない」が 5 人 (20.8%)、「やや難しかった」が 1 人 (4.2%) であった。

「解説動画 (YouTube で配信された動画) はわかりやすかったですか」については、「とてもわかりやすかった」が 13 人 (54.2%) と最も多く、「ややわかりやすかった」が 8 人 (33.3%)、「どちらともいえない」が 2 人 (8.3%)、「やや難しかった」が 1 人 (4.2%) であった。全体的な傾向として配布資料と解説動画がわかりやすかったという評価だった。

1 回ごとの授業内容の量については、「ちょうどよい」が 15 人 (62.5%) と最も多く、ついで「やや多い」が 6 人 (25%)、「とても多い」「やや少なかった」がそれぞれ 1 人 (4.2%) であった。また、授業ごとの課題の量については、「ちょうどよい」が 18 人 (75%)、「やや多い」が 4 人 (16.7%)、「とても多い」「やや少なかった」がそれぞれ 1 人 (4.2%) であった。授業内容および課題の量について、全体的な傾向としては適切と評価されていた。

授業科目への全体的評価 授業科目への全体的評価については以下のような結果になった。まず、オンデマンド型オンライン授業を採用したことについて（「(科目名)」では、資料や課題とともに録画された動画が配信されて都合の良い時間に視聴するオンデマンド型のオンライン授業を採用しました。この形式の授業について、あなたはどのように思いますか」）は、「とても受けやすかった」が 14 人 (58.3%)、「やや受けやすかった」が 8 人 (33.3%)、「どちらともいえない」「とても受けにくかった」がそれぞれ 1 名 (4.2%) であった。

授業の難易度については「ちょうどよい」が 87% と最も多かった (図 1)。「新しい知識、技術、学力はどれだけついたか」は全員が何らかの程度で身についたと回答していた (図 2)。総合的な評価は「よい」が 42%、「非常によい」が 33% となっており、「ややよい」も加えると 96% の回答者がよいと評価をしていた (図 3)。

考 察

評価対象となった授業科目はオンデマンド型オンライン授業として実施されたところ、時間割どおりではないさまざまな時間帯に受講され、予習はほとんどされていないが、週に1時間以内は復習されており、課題は全体の2/3以上提出されていた。

授業内容については、配布資料や動画はわかりやすいと評価されており、授業内容や課題の量も適切であるとの評価だった。全体的な評価においても難易度は適切であると評価されており、オンデマンド型オンライン授業の形態が受けやすいとの評価であった。

従来教室での講義形式で実施されていた授業科目について、解説動画を含む複数の教材を提供して実施するオンデマンド型オンライン授業で実施した場合、全体的には好意的な評価であった。ただし、調査に回答した人数が少なく、分析対象のデータ数が少なかった。調査に協力的な学生、授業科目に対して意欲的な学生が主に回答した可能性があるため、より多くの学生に尋ねる必要があった。

また、評価対象となった授業科目についてのみ尋ねているため、対象となった科目特有の問題も考えられることから、オンデマンド型オンライン授業全般について評価する場合にはその他の授業科目も考慮して広く評価する必要があるだろう。そこで、研究2では、2020年前期に実施したオンライン授業全般についての評価を尋ね、その内容を検討した。

研究2 オンライン授業全般への評価の検討

研究2では、2020年前期に実施されたオンライン授業全般への評価や要望、問題点を尋ねて、さまざまな形態で実施されたオンライン授業をどのように評価しているかを調べた。加えて、オンライン授業を受けることのメリットやデメリットをどのように認識しているかを明らかにする。

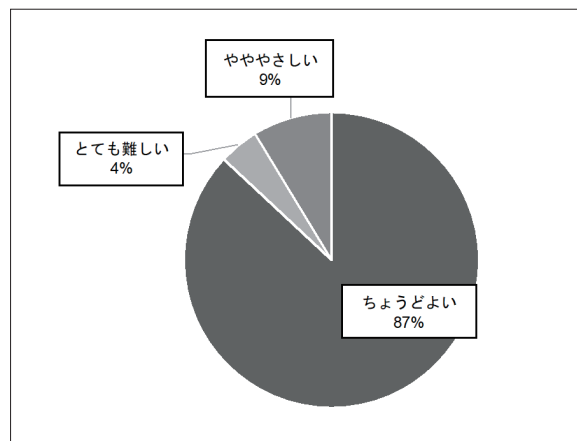


図1 授業度の難易度の評価

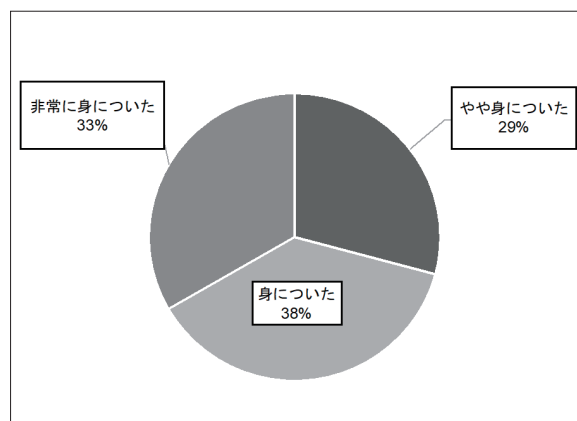


図2 「新しい知識、技術、学力がどの程度身についたか」の評価

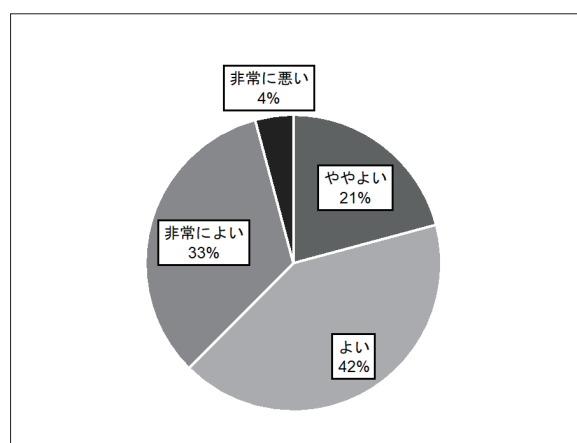


図3 授業への総合的な評価

方 法

調査協力者 首都圏の大学生 111 名が回答した。学年は2年生43名、3年生57名、4年生11名であった。性別は女性51名、男性58名、「回答しない」は2名であった。現在居住している場所は、神奈川県が62名(55.9%)と最も多く、ついで東京都が36名(32.4%)、埼玉県が6名(5.4%)とつづいた。現在の生活状況は、「実家(保護者、親類など)暮らし」が79名(71.2%)と最も多く、ついで「一人暮らし」が24名(21.6%)とつづいた。居住地のタイプは集合住宅(マンション、団地、アパート等)が50名(45%)と最も多く、ついで「戸建て」が55名(49.5%)とつづいた。

質問項目 研究1と同様、項目の一部は、青山学院大学地球社会共生学部によって実施された「青山学院大学 GSC オンライン授業に関する一斉アンケート調査 2020 July」の質問項目を一部使用した。

手続き 著者が後期に担当する心理学関係の授業科目において、授業ガイダンス時に Google フォームを用いて調査協力者に回答を求めた。調査フォームの表紙に学術目的で使うことを明記して、同意を得た者だけに回答を進めてもらうようにした。

結 果

オンライン授業の受講環境 オンライン授業を主に受ける家庭内での場所については、個室が70人(63.1%)、リビングが34人(30.6%)、共有部屋が7人(6.3%)となっていた。自宅のネットワーク環境は、「光回線(1Gbps以上のCATVも含む)」が58人(52.3%)、「よくわからない」が31人(27.9%)、「光回線光以外の固定ブロードバンド回線(ADSL等通信速度が1Gbps未満)」11人(9.9%)、「モバイルWiFi(WiMax/4G/5G等)」が8人(7.2%)、「携帯電話(テザリング含む)」2人(1.8%)、「その他のブロードバンド回線」1人(0.9%)となっていた。自宅のネットワーク環境の通信制限については、「通信制限あり」が14人(12.6%)、「通信制限なし」が87人(78.4%)、「不明」が10人(9%)であった。

オンライン授業全般に対する評価 オンライン授業全般については、「オンライン授業全般に対して満足し

ていますか?」については1-5の5段階評価で平均3.39(標準偏差0.95)であった。「多様なメディア等を利用して講師とコミュニケーションがとれていますか?」については1-5の5段階評価で平均3.00(標準偏差1.04)であった。

「オンライン授業の講義資料の共有は、いつ実施して欲しいですか?」については、「前日」が47人(42.3%)、「2~3日前」が26人(23.4%)、「当日で構わない」が23人(20.7%)、「4日~1週間前」が12人(10.8%)、「初回授業時にまとめて共有して欲しい」が3人(2.7%)であった。

学習支援システムへの評価 オンライン授業のために使われていた学習支援システムである「コースパワー」に関して、「オンライン授業開始日~現在までに、コースパワーの利用で困ったことがありますか?」に「とても困った(1)」から「全く困らなかった(5)」の5段階評価で平均2.79(標準偏差1.25)であった。

「コースパワーにアクセスできず、具体的に困ったことを教えてください。」については「リアルタイム型授業のURLの取得」が74人(66.7%)と最も多く、ついで「課題の提出」が58人(52.3%)、「コースパワー内での講師のリアクション(掲示板や質問登録など)」25人(22.5%)、「特になし」が15人(13.5%)と続いた。

「コースパワーにアクセスできた場合でも、使いにくいなど具体的に困っていることがあれば教えてください。」については、「出席がとられているか不安」が57人(51.4%)、「動作が遅い」が51人(46%)、「特になし」が25人(22.5%)、「課題の提出がしにくい」が21人(18.9%)、「ファイルサイズの容量制限にひっかかる」が9人(8.1%)となっていた。出欠確認や動作の遅さについての懸念が主に指摘されていた。

「講義資料の共有において、コースパワー以外に使用されている媒体」については、「コースパワーのみ」が29人(26.1%)、Google Classroomが99人(89.2%)、Microsoft Teamsが4人(3.6%)、オンラインストレージ(Googleドライブ、Dropboxなど)が46人(41.4%)、SNS/チャットツール(Facebook、Twitter、LINEなど)が17人(15.3%)、掲示板システムが8人(7.2%)、独自ウェブサイトが7人(6.3%)、その他のブログ系コンテンツ共有

サービス (note, Medium など) が 0 人 (0%) となっていた。Google Classroom との併用が 90% 近くを占め、ついでオンラインストレージとの併用をしている傾向がみられた。

それぞれの講義資料共有ツールとしての使い勝手について 5 段階評価を求めると、コースパワーの評価が最も高かった (4.10, 標準偏差 1.01)。自由記述でその理由を求めると「使い慣れている」「全ての授業が一括で管理できる」「比較的アクセスしやすい」「質問登録できる」「どこに何があるのかが明確だから使いやすい」「学校からの詳しい情報 (履修, 就職, 各種ツールのガイド等) はここから得ることが多いため必要」「参照したのかを示す機能があり、課題の提出忘れなどを防止できて良い」「課題締切のリマインドがある」といった回答が見られた。

ついで評価が高かった Google Classroom (3.59, 標準偏差 1.11) については、「様々なデバイスからアクセス可能だから」「やっていない課題が表示される」「自分の行ったレポートと連動しているから」「課題をアップロードする際、GoogleDrive からクラウドで保存されるため再利用が比較的簡単」「やっていない課題が表示される」「各回がまとまっていて振り返りや復習がしやすい。また講義動画が YouTube だと自分のききやすい速度で聞けるため便利」「見やすい」「教材のダウンロードがコースパワーよりもやりやすいから」「課題の評価が見やすい」「機能が多く、話し合いをしながらみんなで発表資料を作ることに向いている」「コースパワーのように重くならない」「教員の人にわからないタイミングでチャットができるので授業において行かれることや分からずもやもやして終わることがない」「きちんと整理されていてわかりやすい」といった記述が見られた。

リアルタイム型授業への評価 リアルタイム型授業を受けていた学生は 101 人 (91%) であった。リアルタイム型授業実施時の使用端末については、ノートパソコン 82 人 (73.8%), デスクトップパソコン 13 人 (11.7%), スマートフォン 2 人 (1.8%), タブレット 2 人 (1.8%), 「基本的にはノートパソコンで受けて、ノートパソコンの調子悪いときはスマートフォンで顔出ししないで受講している」が 1 人 (0.9%), 無回答が 1 名 (0.9%) であった。

Webex を用いたリアルタイム授業の受けやすさの

評価 (5 段階評価) の平均は 2.75 (標準偏差 1.03) だった。授業の受けづらさについては「パソコンが重くなる」「Zoom と比べて使い方が分かりにくい」「ラグがあったりして話しぶり時がある」「音声安定しない時がある」「教師のスピードが速くて対応できない」「参加者の入退出音がうるさい。」などがみられた。

Webex での授業の受けやすさについては、「シンプルで使いやすい」「Zoom と変わらない」「チャット機能で質問できる」「ミュートビデオオフだと割と快適に授業を受けられる」「リアルタイム型の方が実際に授業に出席しているような気持ちになるため」「使い慣れているから」「実際に先生がリアルタイムで解説してくれるので、わからない度に質問できるのがとても便利」「場所を問わず受講できるから」「接続は早い気がする」「操作は分かりやすい。」「比較的に軽い気がする」「必要な機能が備わっているから」といった回答が見られた。

リアルタイム授業で使用したことのあるツールは、Zoom が 91 人 (95.8%), Google Meet (旧 Hangouts Meet) が 45 人 (47.4%), Microsoft Teams が 4 人 (4.2%) と続いた。それぞれのツールの使いやすさについて評定を求めたところ、Zoom の使いやすさの評価が最も高かった (3.89, 標準偏差 1.04)。リアルタイム型の授業で、少人数グループに別れてグループディスカッションを行ったことがある回答者は 75 人 (75.8%) だった。オンラインでグループディスカッションした回答者にどの程度使いやすかったか 5 段階評価で尋ねると、平均 3.08 (標準偏差 1.23) だった。

リアルタイム型授業のメリット・デメリットについて自由記述で回答を求めると、表 1 のような回答が見られた。メリットについては、「ディスカッションを必要とする場合、参加しやすい」「質問があった時にすぐ教員に答えてもらえる点」などコミュニケーションのしやすさが最も多く、ついで「授業を後回しにさせずにすむ」「生活リズムが整う」など生活リズムにおけるメリットが上位に上がった。

デメリットについては、「自由な時間に受けられない」という時間が決まっている問題、「声が聞こえなかったり、映像が止まったりする」などの音声映像トラブル、「接続が切れたら授業を受けられない」という通信環境の問題が上位に上がった (表 2)。

オンデマンド型授業の受講状況と評価 前期にオンデマンド型の授業を受けていた学生は110人(99.1%)であった。受講経験者に受講状況や受講しての評価を求めた。

まず、オンデマンド型授業実施時の使用端末については、ノートパソコンが90人(81.8%)、デスクトップパソコン14人(12.7%)、スマートフォン3人(2.7%)、タブレット3人(2.7%)であった。受講しているオンデマンド型授業でのコンテンツは、映像が106人(97.2%)、音声が55人(50.5%)、スライド・配布資料などのデータが84人(77.1%)であった。

1回の授業あたりで適切と思われる動画の長さについて

については、60分が36人(32.7%)、30分が20人(18.2%)、40分が15人(13.6%)とつづいた。オンデマンド型授業の受けやすさについて5段階評価をもとめたところ平均4.18(標準偏差0.93)だった。

オンデマンド型授業のメリットとデメリットについても自由記述で回答を求めた。記述内容を整理したところ、それぞれ表3、表4のとおりとなった。メリットについては、時間の制約のなさをあげている回答者が最も多く、ついで学習ペースを自分で決められること、必要な情報をすぐ入手できるアクセスしやすさがあげられていた。一方、デメリットについては、課題をためこんでしまう、受講を忘れてしまうといった「課題や受講の管理」の問題が最も多く、ついでデメリット

表1 リアルタイム型授業のメリット

カテゴリ	人数	記述例
コミュニケーションのしやすさ	25	ディスカッションを必要とする場合、参加しやすい。
生活リズム	11	決められた時間に集中して取り組むことができる。／授業を後回しにしないで済む
なし	7	なし
集中できる	4	集中できる
出席している実感	4	実際に教室へ足を運び、他の受講生と共に学んでいるかのような一体感を味わうことができる点。
距離の制約のなさ	4	現実の距離を問わず、先生の授業に参加できることです。
管理しやすさ	2	学習の管理ができる
対面と同じ	2	対面と同じように授業を受けることができる。
移動時間	1	移動に時間がかからない
緊張感	1	緊張感がある
課題の少なさ	1	課題が少なく済む
理解しやすさ	1	理解がしやすい。
出席しやすさ	1	サボる心配がない
場所	1	好きな場所で受けれる
総計	65	

表2 リアルタイム型授業のデメリット

カテゴリ	人数	記述例
時間が決まっている	16	決められた時間なので、いつでもどこでも受けられない。
音声映像トラブル	13	声が聞こえなかったり、映像が止まったりすること
通信環境の問題	12	接続が切れたら授業を受けられない
コントロールできない	11	分かりにくかった内容を巻き戻すことできない点
コミュニケーションの難しさ	8	会ったことも話したこともない人たちと、顔も出さずに話し合いは難しい。
参加しづらさ	3	体調が悪い時や通信環境が悪い時に参加できない可能性がある。
パソコンの問題	3	パソコンの調子が悪いと授業を受けられない
トラブル対応	2	パソコンやインターネットに急な問題が発生した場合に、素早い対応が難しく、受講に支障がでる可能性がある。
その他	2	トイレに行きづらい。
なし	2	特にないと思う。
効率性	2	オンデマンドの方が効率がよいのではと思うことが多々ある
授業の計画通りに進まない	1	授業内容が計画通り進まない場合などがある
面倒	1	めんどくさい
時間をとる	1	時間をとる
総計	77	

トはないという回答、質問ができないといった「双方向ではないコミュニケーション」の問題、資料のみでは授業の理解が難しいといった「授業内容の理解」に関わる問題などがあげられていた。

オンライン授業の影響と今後の授業形態について 最後に、オンライン授業を受けることによる影響と今後とるべき授業形態について回答を求めた。まず、オンライン授業を受ける上で困ること（複数回答）として最も多くあがったのが「課題が多い」78人（70.3%）、ついで「目が疲れる」61人（55%）、「集中力が続かない」49人（44.1%）、「先生に質問がしにくい」47人（42.3%）、「友達と一緒に学べず孤立感を感じる」36人（32.4%）などと続いた。

一方、オンライン授業を受ける上でのよかったこと（複数回答）として最も多くあがったのが「自分のペースで学習できる」101人（91%）、ついで「大学まで行く必要がない」84人（75.7%）、「自宅で学習できる」78人（70.3%）、「復習が何度でもできる」59人（53.2%）、「睡眠時間を確保できた」34人（30.6%）などとなつづいた。

COVID-19 終息後のオンライン授業のあり方については、「対面授業とオンライン授業を組み合わせるべき」「オンラインのみの授業も行うべき」とオンラインを含めた授業形態を選ぶ回答者が多かった（表5）。これらの選択肢を選んだ回答者にたいして最も望ましいオンライン形式は何かを尋ねたところ、「オ

表 3 オンデマンド型授業のメリットの回答

カテゴリ	人数	記述例
時間の制約のなさ	58	時間に縛られずに好きな時間に受けることができる
学習ペース	30	じっくり自分のスピードで受講できる
無回答	14	-
アクセスしやすさ	6	重要な知識を素早く入手できる、先生の話の聞き逃すことがない
場所の制約のなさ	1	いつでも好きなところで受けれる。
トラブルへの対応しやすさ	1	期限を設けることができ、大抵の教員の方は1週間ほど公開してくれているので、トラブルがあった時に対処しやすい。
緊張しない	1	緊張しなくても済む
総計	111	

表 4 オンデマンド型授業のデメリットの回答

カテゴリ	人数	記述例
無回答	39	-
課題や受講の管理	24	授業を溜め込んでしまう。
デメリットなし	16	特になし
双方向ではないコミュニケーション	11	質問できない／先生や他の受講生と意見を交換することが難しいこと。
授業内容の理解	6	資料のみの場合、理解不足
授業参加時の問題	6	集中力が保ちにくい。気がゆるむ。／授業の参加感が薄く不安になる
課題の問題	2	試験などがない分最終課題の負担が大きい
授業運営	2	教員によって使っているツールがバラバラで使いにくいと感ずることがある。
評価方法	1	課題がないと、評価方法が不安になる。
通信環境の問題	1	通信制限等に引っかかってしまう時がある
生活リズム	1	強いて言えばオンラインの双方向型の授業が混ざっていると生活リズムが変わってしまうこと。
トラブル対応	1	トラブルが起きたときに迅速な対応が難しい。
その他(記入間違いと考えられるもの)	1	聞きなおしなどが可能
総計	111	

ンデマンド型授業を行うべき」が 71 人 (80.7%) と最も多く、ついで「自己学習型授業を行うべき」26 人 (29.5%)、「リアルタイム授業を行うべき」19 人 (21.6%) と続いていた。

考 察

本研究の目的は、オンデマンド型で実施されたオンライン授業実践の評価を行い、オンライン授業全般への評価を検討し、今後も継続されることが予想されるオンライン授業実践をよりよくするための手がかりを考えることであった。

研究 1 では、筆者が行ったオンデマンド型オンライン授業とその評価を検討した。従来講義形式で実施していた授業科目であったが、解説動画と PDF の資料、掲示板を組み合わせるオンデマンド型での実施によりおおむね受講しやすいとの評価が得られた。

研究 2 では、オンデマンド型以外の形式も含めたオンライン授業全般についての学生による評価を検討した。リアルタイム型、オンデマンド型のそれぞれについてメリットとデメリットがあげられた。リアルタイム型のメリットは、ディスカッションがしやすいなどのコミュニケーションのとりやすさ、オンデマンド型のメリットはいつでも受講できる時間

的制約のなさが主にあげられた。リアルタイム型のデメリットは時間的な制約があること、オンデマンド型のデメリットは課題を溜めたり受講を忘れるといった課題や受講の管理のほか、質問ができないといった双方向ではないコミュニケーションの問題があげられた。今後のオンライン授業のあり方としては対面授業と組み合わせる形の形態が望まれる傾向があった。

新型コロナウイルス感染の拡大によって、通信教育課程が含まれていない大学でこれまでは教室で実施していた授業科目をオンライン経由で行うことを余儀なくされた。2021 年 1 月 12 日現在では 29 万 8168 人の感染が国内で確認されており（「NHK 特設サイト 新型コロナウイルス」より）、感染の第 3 波が起きているという報道が連日なされている。感染の収束が見えない現状から、2021 年度に従来のような形態での対面授業に戻る可能性は現時点では考えにくい。オンライン授業と対面授業を授業回ごとに組み合わせるブレンド型、同じ授業をオンラインと対面の同時で行いいずれかで受講するハイフレックス型が提案されている（京都大学高等教育研究開発推進センター「CONNECT」のサイトより）。今回の調査においても対面授業とオンライン授業を組み合わせる形態を求める声が多かった。今後こうした授業形態で効果的に授業を実施していくためにも、オンライン授業を実施しての結果や評価を共有して今後の授業計画の立案や実践に生かしていく必要がある。

表 5 COVID-19 終息後のオンライン授業のあり方の回答

選択肢	人数
対面授業とオンライン授業を組み合わせるべき（対面授業を前提に、学生はオンラインでも参加可能）	54
オンラインのみの授業も行うべき（講義ごとに対面 or オンラインを講師が選択）	30
すべて対面授業で行うべき	24
基本は全て対面だが、ガイダンス回や休講の代替にはオンラインを利用する	1
講義は対面授業とオンライン授業の同時実施で、授業形態を受講生が選択できるようにする	1
オンライン授業をしたことでオンラインと対面の両方のメリットを知ったため、どちらがいいのかという決断をするのは難しい	1
総計	111

最後に今後の課題を述べる。本研究で述べた授業実践は心理学系の授業だけであった。今後、社会科学や情報科学などさまざまな分野での授業実践の評価の蓄積が必要である。また、今回紹介した授業実践は講義科目だけであった。今後は、実習形式や演習形式といった他の形式の授業実践も含めて実践内容の評価することが求められる。

国内における新型コロナウイルスの感染状況は刻一刻と変わっているが、来年度の大学における授業の形態が「新型コロナウイルス感染拡大」以前と全く同じ状態に戻ることは考えにくい。コロナ禍という困難に直面したことで大学教育がこれまでにない大きな影響を受けた。今後の授業実践に活かすとともに、大学教育のあり方の議論につなげることが求められる。

文献・ウェブサイト

- 青山学院大学情報メディアセンター (2020) オンライン授業支援特設サイト <https://telecon.aim.aoyama.ac.jp/home> (2020 年 11 月 30 日アクセス)
- 青山学院大学 GSC オンライン授業に関する一斉アンケート調査 2020 July <https://github.com/gsc-aoyama/questionnaire4onlineclasses> (2020 年 11 月 28 日アクセス)
- 京都大学高等教育研究開発推進センター (2020) ハイブリッド型授業とは 京都大学高等教育研究開発推進センター「CONNECT」<https://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/connect/teachingonline/hybrid.php> (2020 年 11 月 30 日アクセス)
- LINE OpenChat 公式ブログ <https://openchat-blog.line.me/> (2020 年 11 月 30 日アクセス)
- 文部科学省 (2020a) 新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた大学等の授業の実施状況 https://www.mext.go.jp/content/20200717-mxt_kouhou01-000004520_2.pdf (2020 年 11 月 30 日アクセス)
- 文部科学省 (2020b) 大学等における本年度後期等の授業の実施と新型コロナウイルス感染症の感染防止対策について (周知) https://www.mext.go.jp/content/20200916-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf (2020 年 11 月 30 日アクセス)
- NHK 特設サイト 新型コロナウイルス <https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/> (2021 年 1 月 12 日アクセス)
- 新型コロナのインパクトを受け、大学教員は何をすべきか、何をしたいかについて知恵と情報を共有するグループ (旧「新型コロナ休講で、大学教員は何をすべきかについて知恵と情報を共有するグループ」) <https://www.facebook.com/groups/146940180042907> (2020 年 11 月 19 日アクセス)
- 富永敦子・向後千春 (2014) e ラーニングに関する実践的研究の進展と課題. 教育心理学年報, 53, 156-165.